

マーじゃんが人気

高齢者施設など

かけて成長してきた。5日、教室をのぞくと、20人が時折談笑しながら、真剣勝負を楽しんでいる。教室は2

時間と決めているが、「つい真剣になって時間がたつのを忘れてしまふ」と女性たち。参加者の一人、村岡

てくれて、今では家族マーじゃんも楽しんでます」と話す。「認知症予防に始めた取り組みが、仲間づくりにも役立っています」と新井さん。介護予防にもしっかり貢献しているようだ。

一石三鳥の楽しい時間



みんなの茶の間の初心者マーじゃん教室。毎週ほぼ満席の盛況ぶりだ

初心者教室に毎回20人超

「みんなの茶の間」盛況

桐生市梅田町一丁目交流サロン「みんな茶の間」で初心者マーじゃん教室が盛況。毎週水曜の教室で

5卓ある雀卓がフル働。女性が多く、ルールを覚えながらの和気あいとした雰囲気。参加者らは頭体操、腕と指の運動、して仲間づくりと、「石三鳥の楽しい時

を過ごしている。みんなの茶の間は桐生市ボランティア協議会が運営する高齢者の交流サロン。2016秋に開設し、400

円のランチを提供しているほか、日替わりで教室なども開催している。

初心者マーじゃん教室は、開設当初から続く人気のプログラム。当初は3卓でスタートしたが、受講者は徐々に増え、今では6卓を

設置。毎回20人以上が参加し、常時5卓が満席となる盛況ぶりだ。

「牌(はい)も卓もみんなを持ち寄ったもの。こたつに足をつけたり、点棒を入れるケースを卓の裏に手づくりしたり。整備を

しました」と、指南役の一人でボラ協メンバーの新井晴夫さん(77)は話す。

中心は60代、70代の女性で、生まれて初めて牌をつかむ人も多かった。参加者たちは壁面に張った手づくりのルール表や点数計算表などを見ながら覚え、実践形式で1年半